

第2回連携中枢都市圏(東青地域)ビジョン懇談会における意見と対応方針一覧

意見	対応方針
○企業間の連携強化、ビジネスマッチングを促進し生産性の向上を図れないか。	○「No, 4 中小企業者ビジネスサポート事業」で対応する。
○農林水産業において、加工工場といった付加価値をつける生産部門を地域内で起こし、6次産業化につなげるなどの地域で稼ぐ仕組み作りを強化する必要がある。	○「No, 3 起業・創業等支援拠点運営事業」で対応する。
○スマート農業は、青森市のみならず、圏域全体で展開することにより、ビジネスチャンスが広がる。	○「No, 10 スマート農業普及対策事業」で対応する。
○観光面では、現状、十分に地域で消費されていない。また、青森市で新たに始めたスポーツコミッションも、まだまだ伸びる余地があるので、スポーツ観光の取組も更に強化していく必要がある。	○「No, 15 むつ湾広域連携事業（産業・観光）」の観光部会事業で対応する。
○青森駅があと約2年弱で新しい駅に生まれ変わり、駅周辺の再開発も進んでいる。市街地に滞在する住民が増えると、自ずと売り上げも増えると言われるが、そのためには、公共交通機関の緊密なネットワーク化や青森市が行っている空き店舗を活用したリノベーションの取組を進めて、街全体の魅力をアップさせて、地域住民が集まりやすい環境を作り、それによって地域全体が潤うという姿ができればよいと思う。	○公共交通機関のネットワーク化については、中長期的な視点で検討する。 ○空き店舗を活用したリノベーションについては、青森市内を対象地域とした地域再生計画に位置付けた事業として本年度から実施。（令和元年度は3年計画の初年度）
○農業移住・新規就農サポート事業は、現在、蓬田村で実施しているが、この事業は継続していただきたい。	○「No, 9 農業移住・新規就農サポート事業」で対応する。
○自動運転トラクターは約1,400万円で、個人では難しい。共同利用という形で進めたい。ドローンは現在、水稻を中心に活用している。野菜栽培にも使えるような農薬開発について、行政等で支援してくれれば、もっと幅広くドローンは農薬散布などには使える。農家の高齢化が進んでおり、農業の軽労化を進めるのに必要な対策であるのでお願いしたい。	○「No, 10 スマート農業普及対策事業」で対応する。

意見	対応方針
<p>○今、大きな問題となっている防災や貧困、あるいはひきこもりといった家庭内の問題も含めた様々な課題について、吸い上げて、行政同士でもって連携して解決する取組が必要ではないか。</p>	<p>○防災については「No, 35 自主防災活動促進事業」で対応する。</p> <p>○貧困は、青森県子どもの貧困対策推進計画の各種事業と連携し対応する。</p> <p>○ひきこもりは、青森県ひきこもり地域支援センターの事業と連携し対応する。</p>
<p>○1年に1回の研修ではなく、毎月1回、自主防災組織、消防団、防災士、子どもやお年寄りが集まって一緒に勉強し、防災の知識を学ぶ場、拠点が欲しいと考えている。</p>	<p>○「No, 35 自主防災活動促進事業」で対応する。</p>
<p>○防災は、高齢者の見守りから始まって、目の不自由な方、耳の不自由な方、体の不自由な方も一緒にやっていくことになるが、例えば、耳の不自由な方には、手話通訳士の方々が必要だったり、資料には点字が必要となる。また、小・中学生安全安心対策事業ということで、先生方に指導をしているようだが、小中学生の子ども達に、教育の中で自分の身を守るための勉強を教えていただきたい。</p>	<p>○要支援者の防災に関する学びについては、青森市障がい者総合プランで防災に関する出前講座を実施することとしており、学校教育においては、学習指導要領で防災に関する教育を各学校の授業（社会科等）で学習することとなっている。</p> <p>○災害発生時の要支援者対応については、災害対策基本法に基づき「避難行動要支援者避難支援制度」で、各自治体で対応することとなっているが、今後、必要に応じて広域的な取組が可能であるか検討する。</p>
<p>○高齢者カフェというものがある。さらに子どもたちの貧困というものもあって、そこに集まって食事を取るという取組が全国的に進んでいる。青森にはまだないが、広域的に取り組んでいけたらと考えている。</p>	<p>○子どもたちの貧困は、青森県子どもの貧困対策推進計画の各種事業と連携し対応する。</p> <p>○青森市は、こころの縁側事業において高齢者のつどいの場を支援し、各町村は青森県の地域共生社会における取組と連携し対応する。</p>
<p>○この圏域は、海に接していることで、海からの恵みを受けて発展してきたところであり、更に環境保全の意識を高めていくために、圏域として力を合わせていくことが非常に重要であると考える。</p>	<p>○「No, 36 むつ湾広域連携事業（環境）」で対応する。</p>

意見	対応方針
○浅虫に住んでいるが、定住に向けた取組を地域でも青森市でも様々やっている。各町村でも一生懸命やっていると聞いている。本当に今やらなければならない、追い詰められている地域はあるので、悠長なことは言ってもらえない状況。	○「No, 38 東青地域移住・定住促進対策連携事業」で対応する。
○中長期的な将来像には、持続だけではなく、「発展」も入れて欲しい。	○資料4「圏域の中長期的な将来像」の「1 圏域の将来像」に、「持続可能な発展する圏域」と記載。
○平内町ではホタテを中心に利益を上げているところであり、こういう部分を全体に広げていければよいと思う。	○「No, 15 むつ湾広域連携事業（産業・観光）」の観光部会事業で対応する。
○外ヶ浜町では、観光に関しては龍飛崎と大平山元遺跡がある。龍飛崎は、春から秋まではよいが、冬期間の観光について取り組む必要がある。遺跡は、今年度から事業が始まったところであるが、石器時代、5,000年前の遺跡ということをもっとPRしていけばよいと思う。	○「No, 15 むつ湾広域連携事業（産業・観光）」の観光部会事業で対応する。
○災害関係では、経験上、地震があった場合、水道が止まり、下水道が使えなくなり、生活がストップしてしまうので、官民が連携して対策に取り組んでいく必要がある。	○「No, 34 水道事業の広域連携」で対応する。
○介護職員は、求人してもほとんど集まらないので、広域的に取り組んでいただきたい。	○青森県の福祉・介護人材確保対策事業と連携し対応する。
○職員の人事交流については、外ヶ浜町では県に派遣している。各町村の行政のやり方は様々あるので、人事の交流をして、職員に勉強させ、資質向上を図って欲しい。	○「No, 43 職員人事交流」で対応する。
○ホタテの貝も、建築材料になると聞いたことがある。1つの地域では限りがあるので、こういった取組を広域的に進めていくことを模索していきたい。	○今後、現状と課題について整理し、広域的な取組が可能であるか検討する。
○前提として、人口は減っていくもの。増えるということはありません。移住といっても、東京から10万人きてもらえるかということ、それは難しいと考える。交流人口を増やすことも大事だが、いわゆる関係人口を増やすことを目標にやっていく必要がある。	○「No, 38 東青地域移住・定住促進対策連携事業」で対応する。

